

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境						0.40		-	3.2
1	音環境				3.0	0.15	2.6	1.00	2.8
	1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	3.0	0.40	
	1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	
	1	開口部遮音性能	—		3.0	0.40	3.0	0.30	
	2	界壁遮音性能	—		3.0	0.60	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—			-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—			-	3.0	0.20	
	1.3 吸音		—		3.0	0.20	1.0	0.20	
2	温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
	2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
	1	室温	—		3.0	0.38	3.0	0.57	
	2	外皮性能	—		3.0	0.25	3.0	0.43	
	3	ゾーン別制御性	—		3.0	0.38		-	
	2.2 湿度制御		—		3.0	0.20	3.0	0.20	
	2.3 空調方式		—		3.0	0.30	3.0	0.30	
3	光・視環境				3.6	0.25	4.1	1.00	3.7
	3.1 昼光利用				4.2	0.30	4.2	0.30	
	1	昼光率	医務室 2.8%、居室1.6%		5.0	0.60	5.0	0.60	
	2	方位別開口	—			-		-	
	3	昼光利用設備	—		3.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 グレア対策				4.0	0.30	4.0	0.30	
	1	昼光制御	庇とカーテンを組み合わせでグレアを制御している		4.0	1.00	4.0	1.00	
	3.3 照度		—		3.0	0.15	3.0	0.15	
	3.4 照明制御		各居室に付属リモコンで調光調色が可能なシーリングライトを1灯設置		3.0	0.25	5.0	0.25	
4	空気質環境				3.3	0.25	3.5	1.00	3.3
	4.1 発生源対策				3.0	0.50	3.0	0.63	
	1	化学汚染物質	—		3.0	1.00	3.0	1.00	
	4.2 換気				4.0	0.30	4.3	0.38	
	1	換気量	居室の換気量は60m3/h人 共用部は150m3/h人		5.0	0.50	5.0	0.33	
	2	自然換気性能	自然換気有効開口面積率25%、必要外気量を2倍以上確保			-	5.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮	—		3.0	0.50	3.0	0.33	
	4.3 運用管理				3.0	0.20		-	
	1	CO ₂ の監視	—		1.0	-		-	
	2	喫煙の制御	—		3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.9
1	機能性				2.5	0.40	4.0	1.00	2.9
	1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
	1	広さ・収納性	各居室面積13.52㎡を確保し且つ多床室は無し。			-	5.0	1.00	
	2	高度情報通信設備対応	—		3.0	-	3.0	-	
	3	バリアフリー計画	—		3.0	1.00		-	
	1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	
	1	広さ感・景観	居室 CH=2600			-	4.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース	—			-		-	
	3	内装計画	—		1.0	1.00	1.0	0.50	
	1.3 維持管理				3.5	0.30		-	
	1	維持管理に配慮した設計	金属部には亜鉛溶融メッキを使用		4.0	0.50		-	
	2	維持管理用機能の確保	—		3.0	0.50		-	
2	耐用性・信頼性				3.1	0.30		-	3.1
	2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	—		3.0	0.80		-	
	2	免震・制震・制振性能	—		3.0	0.20		-	
	2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30		-	
	1	躯体材料の耐用年数	—		3.0	0.20		-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		3.0	0.20		-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	居室：床ビニル床シート4.5、壁ビニルクロス(PBt12.5)、天井ビニルクロス(PBt9.5)		5.0	0.10		-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0	0.10		-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、汚水排水VP(B)、給湯SUS(C)、Eは不使用		5.0	0.20		-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20		-	
	2.4 信頼性				2.6	0.20		-	
	1	空調・換気設備	—		3.0	0.20		-	
	2	給排水・衛生設備	—		1.0	0.20		-	
	3	電気設備	—		3.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法	—		3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	—		3.0	0.20		-	

3	対応性・更新性			2.8	0.30	2.7	1.00	2.7
	3.1 空間のゆとり			2.4	0.30	2.4	0.50	
	1	階高のゆとり	—	2.0	0.60	2.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	—	3.0	0.40	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	2.9
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.64	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		—	2.6	0.50	-	-	2.6
	集合住宅以外の評価			2.6	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
	集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	1.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.5
1	水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水		—	3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1 材料使用量の削減		—	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		—	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		—	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.20	-	-	2.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	1.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		LCCO ₂ =80%	3.7	0.33	-	-	3.7
2	地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止		—	3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明・広告照明について過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	○	－	○	－		○	－	○	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		－			○	○	○	－	○	○	－	－	－	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
2.4.3 電気設備	2.0	2.0	○	－	－	－	○	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		－	○	－	○	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		－	2.0	2.0	－	－	1.0	1.0	－	1.0	1.0	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		1.0	1.0	－	－	1.0	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		－	－	－	1.0	1.0	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		2.0	3.0	2.0	2.0	－	－	1.0	1.0	－				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		－	1.0	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－		－	－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	1.0	3.0	3.0	3.0	－	－	－	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	－	1.0	－	－	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	－	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η) 0.5		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根 0.5	外壁 1.0	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH
昼光率	2.8%			
自然換気有効開口面積率	25.0%			

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	13.5㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	2.6 m					
リフレッシュスペース	0.5%	レストスペース	2.0%			
想定耐用年数	－ 年					
想定必要間隔	－ 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	15 年					
階高	3.4 m					
壁長さ比率	0.0%					
床荷重	－ N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	38%	建物緑化指数	0%				
空地率	81%	水平投影面積率	26%	地表面対策面積率	24%	舗装面積率	30%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m		0.64	断熱等性能等級		等級4 相当		
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡			採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
				通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
				太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	0.76	無	0.76	オフサイト再エネ有	-	-
一次エネ削減率	再エネ有		無			-	-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%						
特定調達品目	－	エコマーク商品	－	自治体指定の特定品目等	－		
使用比率	5.0%						
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)					
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1430				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	675				

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		38% 隣棟間隔指標Rw 0.96																	
地表面対策面積率		90.9%		屋根面対策面積率		0.0%		外壁面対策面積率		0.0%									
見付面積Sb		747㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		153.67 m		基準高さHb		12.95 m									
緑地		2,000㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	